



こども特派員が行く!!



今月号より「こども特派員が行く!」と題し、小・中学校の子どもたちが自分たちで編集・発行する「特派員」となり有田市の良さを伝えてくれます。今回のこども特派員は、宮原小学校5年生、中山結夢さん、児嶋奎さん、九鬼健人さん、大北直樹さんです。
※紙面の文章および掲載の写真はこども特派員によるものです。

観光ストリート Vol. 5
— 地ノ島 —



見るまゝに波路遙になりけり、
かすめばとほき浦の初島

常盤井入道前太政大臣（続拾遺和歌集巻一）

いよいよ夏本番。海水浴に行こうかと考えている皆さん、美しい砂浜が広がる地ノ島はいかがですか。現在は無人島ですが、その昔、人が暮らしたこともありました。知られざる地ノ島の歴史をひもとき、古代ロマンに思いをはせてはいかがでしょうか？

なぜ、神前で野試合を...
宮原神社では、剣道大会が1年に1度あり、県下ゆい一の神前で野試合が行われる。なぜ、この大会が行われるようになったのか。それは、約400年前に真田幸村にまねかれ、大阪冬の陣で戦った剣豪、宮崎定直が無事にふる里に帰り、太刀を神社に奉納したそう。これにちなんで、毎年春には子ども



なぜ、神前で野試合を...

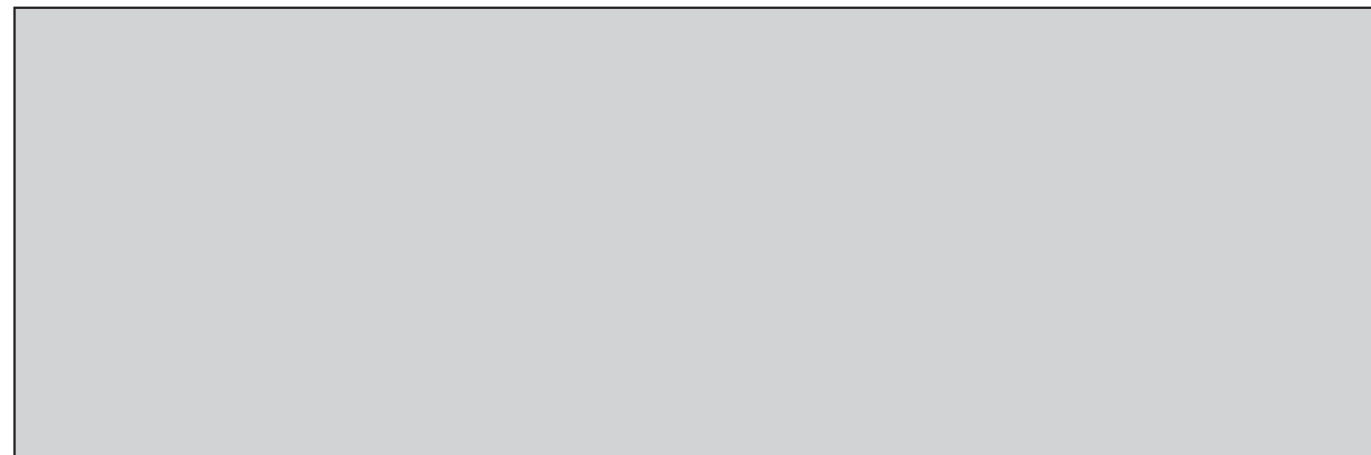


第39回太刀の宮奉納剣道大会
4月20日（日）、第39回剣道大会取材した。選手約250人の熱き戦いが繰り広げられた。選手たちからは、熱気と闘志を感じた。一本勝負ならではの緊張感が会場にあった。そんな中、勝者は喜びに溢れ、優勝への階段を駆け上がった姿が印象的であった。敗者の悔しくて泣く姿は、よほどつらいのだろうと感じさせた。

たちの健康と成長を願って剣道の奉納試合が行われることになった。
遠方からも参加有り!
愛知県から参加した東丘少年剣友会代表の宮本智行さんにインタビューした。宮本さんは、出身が宮原町だそうで、太刀の宮で行われる剣道大会があることを知っていた。自分の生徒さんたちを連れてきたそう。神前でやり直しはきかないという意味での一本勝負は、会

取材を終えて
中山さん/こども特派員として、初めて会う人にインタビューするなんて、きんちょうの連続でしたが、改めて自分たちの町の良さを知ることができ、ますますこの町が好きになった。
児嶋さん/私たちは、みんながいてくれたからこそ、こんなことができるんだなと思えました。
九鬼さん/最初は不安で、長い時間だったので、しんどかったけど、みんなと協力して記事を作り、最後までやり遂げることができた。
大北さん/ぼくは、取材をしていて、疑問に思ったことを、その場で直接聞いてみて分かる経験ができた。

広告



地ノ島遺跡の発見

昭和34年、海水浴客が砂浜で土器片と共に人骨が埋葬されているのを発見し、有田警察署に届け出ました。これが古代遺跡にともなう人骨であったため、調査が開始され、地ノ島に遠い昔、人々が暮らしていたことがわかったのです。

有田市民のルーツ?

約5,000年前の縄文時代中期、有田市内で初めて人々が生活した場所は、なんと地ノ島なのです。そして弥生時代のはじめまでの約3,000年もの長い間、人々は自然とともに暮らしていました。島からは縄文土器や弥生式土器が数多く発掘されています。

「初島」の由来

初島町の「初島」の由来は、沖ノ島・地ノ島が古来「浦の初島」と呼ばれていたことに由来するとされています。「浦の初島」を題材に多くの和歌が残されており、歌人の間では紀伊の名所として知られていました。

夏の海開きに向け、毎年地ノ島で海岸のボランティア清掃が行われています。海水浴に来たお客様が気持ちよく過ごせるように、浜辺に打ち寄せられた流木やゴミを拾い集めたり、伸びた草や枝を切ったりしています。今年の清掃活動もすでに終え、あとはお客様を迎えるばかり。透き通った海を眺めて、思っきり深呼吸しませんか？

地ノ島 問 産業振興課（内線 275）



広告

